

東よか干潟

2015年、国際的に重要な湿地として ラムサール条約湿地に登録

東よか干潟は、佐賀市南部の有明海湾奥部に広がる泥の干潟です。有明海の干満差は最大約6mと日本最大で、干潮時は見渡す限りの広大な干潟が姿を現します。渡り鳥であるシギ・チドリ類の渡来数は日本一を誇り、絶滅危惧種を含む水鳥類の国内有数の渡りの中継地・越冬地となっています。また、干潟には、ムツゴロウやワラスボ、シオマネキなど、泥干潟特有のユニークな生きものが多く生息しています。

干潟に渡来する野鳥たち

(野鳥写真: 栗山千速氏撮影)



ダイゼン
(8月～5月)



ハマシギ
(8月～5月)



ダイシャクシギ
(8月～5月)



クロツラヘラサギ
(11月～4月)



スグロカモメ
(11月～5月)



ツクシガモ
(12月～4月)

干潟の生きものたち



ムツゴロウ
(4月～10月)



トビハゼ
(4月～10月)



シオマネキ
(4月～10月)



シチメンソウ
(紅葉10月下旬～
11月上旬)

干潟のワイズユース(賢明な利用)



のり養殖の風景

販売枚数・販売額ともに日本一を誇る「佐賀海苔」



タカッポ漁

昔から続くムツゴロウの伝統漁法「タカッポ漁」



シギの恩返し米

自然との共生を目指すシギからの感謝の贈り物

干潟よか公園

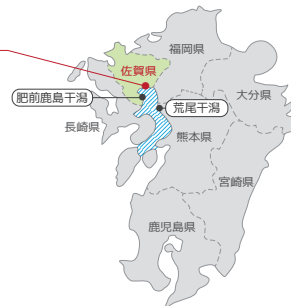
ひがさすに隣接する公園。芝生広場やおもしろ自転車、家族で楽しめる遊具などがたくさん。「じゃぶじゃぶ池」はお子様に大人気です。



ACCESS アクセス

- 🚆 JR長崎本線 佐賀駅から車で30分
- 🚗 長崎自動車道 佐賀大和ICから車で50分
- ✈ 飛行機 九州佐賀国際空港から車で10分

ラムサール条約湿地
東よか干潟



東よか干潟・ひがさすへは、「干潟よか公園」を目指してお越しください。

ひがさす

東よか干潟ビジターセンター

開館時間/9:00～17:00 入館料/無料
休館日/月曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始
〒840-2222 佐賀市東与賀町大字田中2757番地4
TEL0952-37-0515 / FAX0952-37-0548
E-mail: higasasu@city.saga.lg.jp
https://www.higasasu.city.saga.lg.jp/

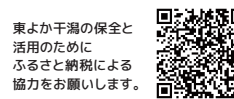


HP



Instagram

higasasu_saga_2020

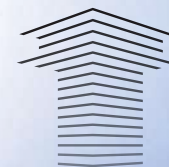


東よか干潟の保全と活用のためにふるさと納税による協力をお願いします。

ラムサール条約湿地 東よか干潟

ひがさす

東よか干潟ビジターセンター

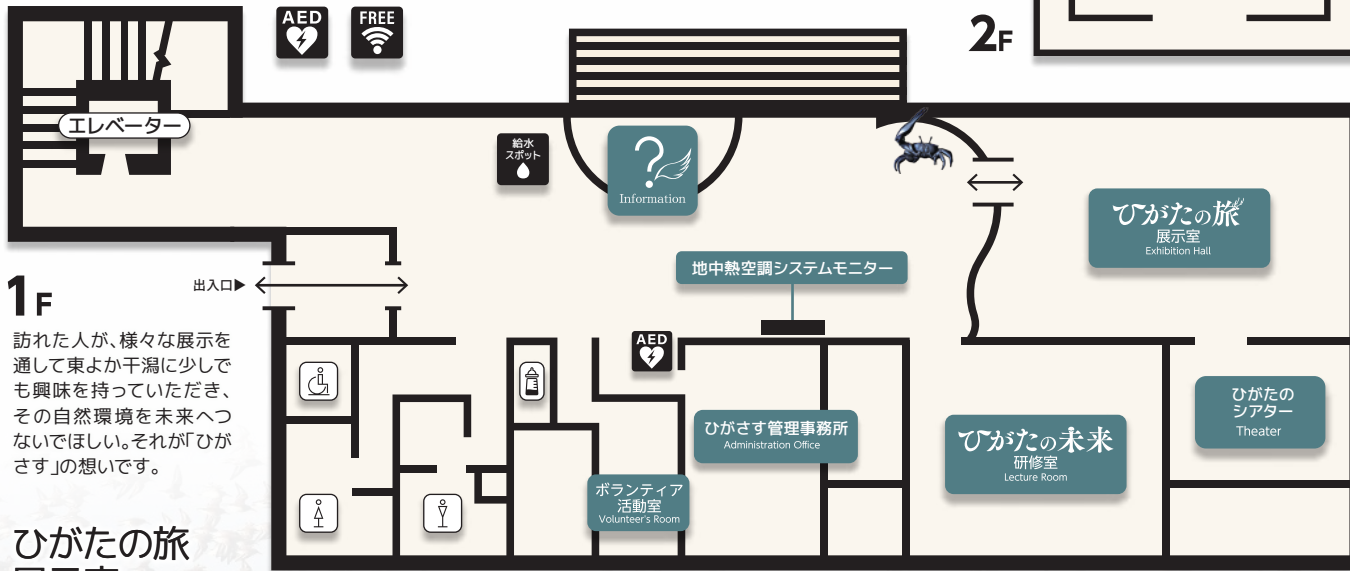


INFORMATION

館内ご案内

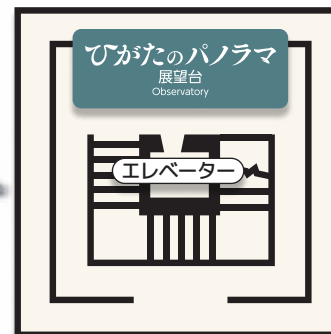
多様な生きものが生息する、東よか干潟。
世界に認められたその価値と魅力を、

ひがたですらで体感しよう!



ひがたの旅 展示室

訪れた人が、様々な展示を通して東よか干潟に少しでも興味を持っていただき、その自然環境を未来へつないでほしい。それが「ひがたす」の想いです。



ひがたの
パノラマ展望台
展望フロアからは南に広大な干潟、北には佐賀平野の田園風景が広がり、まさに絶景です。
双眼鏡からは、干潟の生きものたちの姿も観ることができます。



ひがたの未来 研修室
会議やワークショップなど多目的に使える研修室です。貸出も受け付けています。
65㎡/36名収容可能(スクール形式時)



ひがたすライブカメラ
刻々と変化する有明海や干潟の風景を、リアルタイムで観ることができます。



地中熱空調システムモニター
ひがたすでは、地中にある熱エネルギーを空調に利用しています。地中熱利用の仕組みや省エネの状況を、モニターで観察することができます。



ひがたのシアター
数千羽の野鳥の群れや、泥干潟特有の生きものたち。東よか干潟の四季を、美しい映像とともにご覧ください。

HIGATA VISION プロジェクションマッピング
渡り鳥の旅や東よか干潟の成り立ちを、迫力のプロジェクションマッピングで楽しめます。



干潟と野鳥ゾーン
ラムサール条約湿地登録認定証(実物)を展示しています。また干潟の概要と、ここに訪れる代表的な野鳥を知ることができます。



生きものゾーン
干潟に暮らす生きものたちを展示しています。透明骨格標本や、珍しい巣穴標本もあります。上を見上げると、そこには…?

干潟と暮らしゾーン
私たちの暮らしと干潟との関わり。そして、干潟の保全に取り組む“守り人”からのメッセージです。

干潟の近くで観察してみよう。

季節によって様々な生きものや野鳥が観察できます。

生きもの観察時の注意

- 渡り鳥を近くで見ることができるのは、大潮の満潮時刻の前後1~2時間ぐらいです。
- 干潟の生きものたちを観察した後は、元の場所に戻してあげましょう。
- ゴミは持ち帰りましょう。
- 堤防に駐車しないようにしましょう。

ひがたすは、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に貢献しています。